

SITA

情報理論とその応用学会ニューズレター

新会長挨拶..... 田中 初一 (神戸大学)

名誉員特集

佐藤 洋 先生 (明星大学教授) 推薦文, ごあいさつ

滑川 敏彦 先生 (大阪大学名誉教授) 推薦文

重井 芳治 先生 (前東北大学教授) 推薦文

SITA'98 開催案内

国際会議のお知らせ

次号のお知らせ

新会長挨拶

田中 初一 (神戸大学)

1 はじめに

名実共に情報理論とその応用学会を発展させて来られました名会長、今井秀樹先生の後を継いで、平成10年度の会長を仰せつかりました。私よりもはるかに会長に適任の方が多数いらっしゃる中で、なぜ私が指名されたのか少々疑問ではございますが、研究能力などはなくてもある程度年齢が高く、学会の管理運営という雑用の処理をしてもらえばよいという意味で選ばれたものと受け止めさせて頂きまして、1年間という短い期間ではございますが、学会のために働かせて頂きたいと思っております。会員の皆様方の温かい御支援と御協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

2 満50歳を迎えた情報理論

情報理論とその応用学会が発足して21年目を迎え、新たな気持ちで再出発する年が、丁度 Shannon 情報理論が生まれて50年の記念すべき年にあたり、陰に陽に高度情報化社会の進展に大きく貢献した情報理論の足跡を振り返りながら、その本質を再確認して、理論と応用の両面にわたって更に大きく飛躍発展させるべき絶好の機会が訪れたものと思われる。

まず IEEE の IT グループでは、本年8月16日(日)から21日(金)までの6日間にわたり、MITのキャンパスにおいて、シャノンの古典的論文、“A Mathematical Theory of Communication”(通信の数学的理論)の生誕50年を記念して、1998 IEEE International Symposium on Information Theory の記念大会が企画され、着々と準備が進められている。この記念大会で論文発表を希望する投稿者への呼びかけの特徴は、一人1論文に限定してほしい旨が強調されたこと、並びに通常の ISIT における投稿論文の

Abstract が 500 words 程度であったのに対し、本年の記念大会では論文の価値評価が十分にできるように、5頁~10頁程度の Extended Summary の提出が要求されたことであった。我が国からも ISIT の記念大会へ参加を希望する本学会のメンバーを中心に、多数の論文が投稿されたものと思われる。

また、日本国内に目を移すと、1998年の3月27日(金)~30日(月)の4日間にわたって開催された電子情報通信学会総合大会において、基礎・境界ソサイエティの特別企画としてパネル討論『情報理論50年の歩みと21世紀への展望—Shannonから50年—』が実施された。田崎三郎先生(愛媛大学)と辻井重男先生(中央大学)の名司会のもとに、早朝9時から夕方5時30分までの長きにわたって活発な発表並びに討論が行われ、情報理論の研究者のみならず、コンピュータ技術者、画像・情報処理の分野の研究者・技術者、情報セキュリティ技術の研究者、並びに社会科学の研究者までも巻き込んで、きわめて多数の聴衆を集めて大成功裏に終了した。50年の情報理論の歩みと21世紀への展望が垣間見られた有意義なパネル討論であった。

さらに本学会の主行事であります ISITA'98 は、10月14日(水)から16日(金)までの3日間の予定でメキシコ市において開催される予定である。シンポジウムの日本側の General Chair は平沢茂一先生(早稲田大学)が務められ、坂庭好一先生(東京工業大学)が日本側の Program Committee Chair として、論文の募集が行われている。また SITA'98 は 畑 雅恭先生を実行委員長として、本年12月2日(水)から5日(土)までの日程で、岐阜市の長良川国際会議場において開催される予定である。情報理論50年、SITA21年を迎え、情報理論に新たな飛躍を目指して着々と準備が進められている。

3 若手研究者への期待

20才～30才代の若手研究者にとって、情報理論50年はどんな意味があるのでしょうか。先輩の情報理論研究者達が経験したような、“情報理論は金科玉条の学問である”とか、“情報理論は全く役に立たない死んだ学問である”といったような極端な評価はなされていないようで、情報理論は一つの学問として冷静にすんなりと受け入れられている様子である。この事実は、シャノン情報理論の本質を見極め、冷静にその適用限界を究明して、21世紀に向かって適用範囲の広い新しい情報理論を構築していく上で大変好ましいことである。

しかし、最近の若手研究者の研究スタンスに少々気になる現象が見受けられる。シャノンが情報理論を構築し提唱した時に、その内容を説明する道具として機能を分割した通信モデルが有効に利用されているが、それらの分割された機能、すなわち情報源、情報源符号化、通信路符号化、通信路、符号理論、暗号理論等が別々の概念として把握されていて、お互いに関係が深いことを十分に承知しながら、別々の研究分野のように考えられておられる研究者が意外に多いようである。そして、ゆわゆる“自分の研究分野”以外にはあまり関心を示されないように思われる。所詮、情報理論は冗長すなわち確率的偏りの学問であり、自然に付加している冗長を除去したり、人工的に冗長を付加したりしながら、高信頼度の情報を効率的に伝送・処理・蓄積するために符号化、すなわち何らかのシンボルの系列として情報を表現する所に、その本質があるのであるから、通信モデルの部分的機能を統合的・包括的に捕らえることができる筈である。そして情報理論で処理できる問題、部分的に情報理論で処理できる問題、あるいは全く情報理論が適用できない問題等の識別が可能となり、情報理論の限界も自ずと判明する。情報理論を専攻する若手研究者には、幅広い視野に立って情報理論の本質をよく見極めて頂き、新しい情報理論の構築並びにその発展に成功して、日本から世界に向けてその成果を発信できる日が来ることを心から期待している。

4 SITA 奨励賞の制定とその趣旨

学会で最も貴重な財産は一体何であろうか。学会運営のための組織や基金が必要であることは言うまでもない。本来、学会の目的はその学会が担当すべき新しい研究分野の開発と独創的な研究を推進することであるから、その目的を達成するための原動力となる多数の優秀な若手研究者の集団が、学会にとって最も貴重な財産であると思われる。したがって、多数の若手研究者が情報理論とその応用学会の会員となり、お互いに切磋琢磨しながら活発に研究活動を行うことにより、多数の独創性豊かな研究成果を発表して、学会の会員並びに情報関連産業に多大の影響を及ぼすことにより、社会のために貢献していくことが重要なのである。このような崇高な目的を達成するために、若手研究

者に情報理論分野の研究を遂行する魅力を示し、独創性豊かな研究成果を得た研究者には、何らかの形で優遇することにより社会的なプレステージを与えて、更なる独創的研究を推進するための精神的な支援を行う必要がある。

それでは学会の会員が学会に求めるものは一体何であろうか。会員が時間と労力を費やして得た貴重な研究成果を発表するための適切な場所を提供して頂き、専門家からの的確な御意見並びに評価を頂く機会を求めている。また、その発表した新しい知見が世の中に流布することによって、自己の向上を自覚し、満足感・充実感・幸福感を味わいたいと願望している。

このような学会の目的・存在意義並びに会員の無意識の願望を考えると、これに答える望ましい方策は、極めて独創的な研究成果を得た優秀な若手研究者に SITA 奨励賞を授与することにより、満足感・充実感・幸福感を満喫して頂くと共に、その研究者の社会的地位の向上に貢献することであると思われる。

以上のような趣旨により、筆者が提案した原案を叩き台として、平成9年度の理事会で慎重審議して頂いた結果、SITA 奨励賞規則が制定された。また SITA 奨励賞規則は、松山の全日空ホテルで開催された第20回の SITA'97 から施行され、名誉ある第1回の受賞者は次の通りである。授賞式は SITA'98 の会場で行われる予定である。

1.5.3 神谷 典史 (NEC)

5.1.5 国狭 亜輝臣 (三洋電機)

5.4.5 斎藤 将人 (名古屋大学)

2.5.2 竹内 純一 (NEC)

1.2.6 中野 稔久 (神戸大学)

(氏名の前の番号は発表論文の番号を示す。)

なお、SITA'97 奨励賞の選考委員会のメンバーは次の通りである。

今井 秀樹 (東京大学) : 委員長

田崎 三郎 (愛媛大学)

大沢 寿 (愛媛大学)

森井 昌克 (徳島大学)

丸林 元 (創価大学)

田中 初一 (神戸大学)

中川 正雄 (慶応義塾大学)

坂庭 好一 (東京工業大学)

山岸 篤弘 (三菱電機)

藤原 融 (大阪大学)

5 おわりに

活力ある学会の最も貴重な財産は、多数の優秀な情報理論研究者の集団であります。会長の任期は1年で、既にその1/3が経過してしまいましたが、微力ながら学会の発展と活性化のために、学会の貴重な財産を守るべく努力をさせて頂きたいと思っております。皆様方の温かい御支援と御協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

名誉員特集

(編集より) 昨年 7 月の理事会において、佐藤 洋 先生 (明星大学教授)、滑川 敏彦 先生 (大阪大学名誉教授)、重井 芳治 先生 (前東北大学教授) (理事会議題順) の本会名誉員への推薦が決まり、昨年 12 月の総会で承認されました。ここに 3 先生への顕彰の意をこめて、理事会に提出された推薦文を掲載するとともに佐藤先生からいただいたごあいさつを掲載致します。

名誉会員推薦書

明星大学教授 佐藤 洋 先生を本会の名誉会員に推薦するにあたり、先生の我が学会への貢献を中心として御功績を以下に述べさせていただきます。

先生は我が学会が研究会として発足した 1986 年度から通算八年間を評議委員として活躍され、その後の学会の礎を築られました。その間、電気通信大学が幹事校として担当した平成二年 (1990) 第十三回情報理論とその応用学会シンポジウムにおいてはその大会委員長としての重責を果たされました。

先生は昭和二十六年三月に東京大学理学部物理学科を卒業、昭和二十九年三月に東京工業大学大学院を修了されたあと、同年六月に電気通信大学講師 (電気通信研究施設) に就任されました。昭和三十二年十二月に助教授、昭和四十一年四月に教授に昇任され、その後、情報工学科計算機科学講座を担当、平成五年三月電気通信大学を退官されて、活躍の場を明星大学に移されて今日に至っています。

この間、昭和三十七年三月には「雑音に埋れた信号の検出に関する研究」で工学博士の学位を授けられ、昭和五十年三月から一年間米国ハワイ大学の客員研究員となられました。

先生は、はじめ統計力学、その後確率過程、さらに情報理論と研究の分野を広げられました。統計力学には学生時代から興味を持たれ、これと深い関係にあるランダム過程である“雑音”をとりあげ、これを確率過程論の立場から研究されました。その研究から得られた成果は、常に多くの実験データに基づいた深い洞察に裏打ちされており、雑音の本質に迫る先駆的研究としてこの分野で高い評価を得ています。なかでも、正規過程のレベルクロス間隔分布に多重ピークが存在する実験事実を発見し、その解釈を与えるために、多重ピーク間隔分布に関する理論式の導出に成功した点は特筆に値するものでありましょう。

先生が、現代の科学における情報のもつ意味を啓蒙するプリルアンによる名著“科学と情報理論”に注目されてこれを翻訳 (みすず書房) することにより我が国に紹介されたり、また現在古典的情報理論の標準的な教科書となっている“情報理論” (裳華房) を著わされたのは、まだ我が国の情報理論研究が未熟であった頃のことでありました。昭和五十年三月からの一年間ハワイ大学に滞在された折に、ピータソン教授、スレピアン教授などの情報理論の指導的研究者と交流され、そのころ我が国では情報理論は単に確率論の一つの応用に過ぎず、すでに終結した学問であるという認識が広く流布していたのに対して、情報理論には重要な研究課題がまだまだ残されていること、なかでも情報ネットワークの理論的基礎をなす多端子情報理論こそは実りを約束された研究分野であることを見抜かれました。多端子情報理論の研究のなかで特に優れた成果を挙げられたものに、干渉型通信路、放送型通信路の容量域の研究があります。干渉強度がかなり強い場合の干渉型通信路容量域を厳密に導出することに成功し、最適な性能を与える符号化法も与えています。

このようにご自身が優れた研究成果をあげられたばかりではなく、定期的に電気通信大学において情報理論研究会を長年にわたって主催され後進の育成にも尽くされました。この研究会は通称 I&C 研究会として世に知られ、本学会の会員の多くを育てるのに重要な働きをしてきましたし、今なお情報理論の活発な研究活動の拠点となっています。

以上の長年にわたる先生の御功績に鑑み、先生を本会の名誉会員に推薦致します。

平成九年七月

推薦者（あいうえお順）

有本 卓
安藤 清
伊藤 秀一
井原 俊輔
今井 秀樹
小倉 久直
金谷 文夫
川端 勉
小林 欣吾
阪田 省二郎
佐藤 俊輔
佐藤 創
杉山 宏
田中 初一
田辺 正美
中村 勝洋
橋本 猛
林 彬
韓 太舜
平澤 茂一
星 守
宗像 勉
森田 啓義
山口 和彦
山本 博資

名誉員挨拶

明星大学情報学部 佐藤 洋

私は1951年に大学の物理学科を卒業したが、卒業年次のセミナーで、1948年のシャノンの通信の数学的理論を読む機会があり、それ以後2回程の空白はあったが、情報理論とは深い縁で結ばれてきた。1975年に文部省の派遣研究者として、1年間ハワイ大学で過ごすことができた。その思い出を述べて挨拶に代えたい。

アブラムソン教授に滞在を依頼したが、彼はその頃無線を用いた多重アクセス計算機ネットワークに関するアロハ計画を精力的に推進しており、私にはその理論的側面となる通信の理論が、または多元シャノン理論を研究するように薦めてくれた。昔いくらか勉強したシャノン理論を進めることに決意し、当時ようやく緒についたばかりのその方面の文献を読みあさった。日本にいた時と違って、いわば無限大の時間が自由になり、大学院の学生に返った気持ちで仕事に集中することができた。2、3ヶ月後にベルのスレピアン先生が客員教授としてハワイ大学に来られ、いろいろと議論の相手をして頂き大きな刺激を受けたのは、まことに幸運であった。

ピーターソン夫妻や、2、3世日系人の方々に親身のお世話を受けたことを有り難く思っている。さんさんと輝く太陽、のびやかにそよぐ風、珊瑚礁の青い海に囲まれた1年を今振り返ると夢のようである。

その頃は、シャノン理論の再発展の始まりの時期であり、また公開鍵暗号研究の始まった時期で、情報理論にとって意義深い時点であった。その直後に日本でも本学会の発足を見て、以後着実な発展が進んでいるのを、心から喜んでいる。

名誉員推薦書

1. 対象者 滑川 敏彦 先生 (姫路獨協大学教授)

2. 推薦理由

滑川先生には、本学会の前身「情報理論とその応用研究会」設立時の理事として、また本学会創立当時から顧問として、情報理論およびその応用分野における研究と後進の育成に多大のご尽力をなさいました。先生のお力添えにより、本学会は順調に発展を続けております。先生の長きにわたる本学会への貢献に深く感謝致します。つきまして、本学会会則第6条第1項の規定に基づき、名誉員に推薦させていただきたく存じます。よろしくご承諾下さいますようお願い致します。

平成9年7月24日
推薦者 笠原 正雄
平澤 茂一
今井 秀樹
藤原 謙一
片木 孝至

(編集より) ごあいさつ執筆の願いに対して滑川先生から「御配慮有難うございます。75才の高齢に免じて御許し下さい。」というお返事を頂戴しました。

名誉員推薦書

1. 対象者 重井 芳治 先生 (前東北大学教授)

2. 推薦理由

重井先生には、本学会の前身「情報理論とその応用研究会」設立時の理事として、また本学会創立当時から顧問として、情報理論およびその応用分野における研究と後進の育成に多大のご尽力をなさいました。先生のお力添えにより、本学会は順調に発展を続けております。先生の長きにわたる本学会への貢献に深く感謝致します。つきまして、本学会会則第6条第1項の規定に基づき、名誉員に推薦させていただきたく存じます。よろしくご承諾下さいますようお願い致します。

平成9年7月24日
推薦者 今井 秀樹
笠原 正雄
平澤 茂一
片木 孝至
村上 篤道

(編集より) ごあいさつ執筆の願いに対して重井先生から「毎回ニューズレターなどお送りいただき感謝しております。しかしながら最近の研究活動しておりません。また過去を向くのは苦手です。前進しか知らないバカですので、遠慮させて下さい。有難う。」というお返事を頂戴しました。

S I T A '98 開催案内

SITA'98 開催のご案内

SITA'98 実行委員長
畑 雅恭

第 21 回情報理論とその応用シンポジウムを以下の通り開催致します。今回の会場は、鶺鴒で有名な長良川の川辺に新しくオープンしました長良川国際会議場とその隣接の岐阜ルネッサンスホテルとなっています。会議場やホテルからは、長良川や金華山の美しい自然景観がお楽しみ頂けるものと思います。今年は ISITA, ISIT が開かれる年であることから、論文募集のメ切を例年より 1 月ほど遅らせてあります。是非ともご参加くださいますよう心よりお待ちしております。

また、今年は従来通りの郵送、FAX による参加申し込みとともに、WWW による申し込みも受け付け、迅速性と利便性の向上を図りますので、御協力賜りますようお願い申し上げます。

SITA'98 情報理論とその応用シンポジウム DECEMBER 2-5, 1998, GIFU, JAPAN (<http://sita98.ics.nitech.ac.jp/>)

第 21 回情報理論とその応用シンポジウム (SITA'98) を下記のとおり開催いたします。皆様の参加を心よりお待ちしております。

1. 開催時期

平成 10 年 12 月 2 日 (水) ~ 12 月 5 日 (土)

(12 月 2 日は電子情報通信学会 情報理論研究会を開催予定)

2. 開催場所

シンポジウム会場：岐阜市長良福光 長良川国際会議場

宿泊：会議場隣接 岐阜ルネッサンスホテル

3. シンポジウム内容

一般講演発表：5 パラレルセッション (外国人のための English session を含む) を予定

分野：シャノン理論, 情報源符号化 (理論, アルゴリズム, 画像, 音声, etc.), 通信路符号化, 符号理論, 通信方式, 符号化変調, スペクトル拡散, 光通信理論, 確率過程, 信号処理・認識, ニューラルネットワーク, 暗号・情報セキュリティ, ストレージのための符号と信号処理, 情報理論応用, 他

その他：特別講演, 懇親会, ワークショップなどを計画中。

ワークショップのテーマなどへのご提案, ご要望もお寄せください。

4. スケジュール

開催案内, 宿泊申込書：WWW にて配布中です。

(郵送御希望の方は SITA98 事務局に御連絡ください。)

参加および発表申込締切：9 月 10 日 (WWW または郵送, FAX にてお願いいたします。)

原稿スタイル等の詳細送付：9 月中旬

原稿締切：10 月 23 日

5. 連絡先

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町

名古屋工業大学知能情報システム学科内

SITA98 事務局 内匠 逸 宛

Tel: 052-735-5472, Fax:052-735-5477, 052-744-1030

E-mail: sita98@ics.nitech.ac.jp

詳細情報は WWW Page: <http://sita98.ics.nitech.ac.jp/> を御覧ください。

国際会議のお知らせ

1998 IEEE International Symposium on Information Theory (ISIT '98)

日時 1998年8月16日 - 8月21日
場所 MIT, Cambridge, Massachusetts, USA
連絡先 Dr. G. David Forney, Jr.
Motorola
20 Cabot Blvd.
Mansfield, MA 02048 USA
Email: LUSE27@email.mot.com
Fax: +1-508-337-7173

Professor Robert G. Gallager
Department of EECS, Room 35-206
Massachusetts Institute of Technology
Cambridge, MA 02139 USA
Email: gallager@lids.mit.edu
Fax: +1-617 258-7336

原稿 締切終了 (1997年11月14日)

CRYPT '98

日時 1998年8月23日 - 8月27日
場所 Santa Barbara, California, U.S.A.
連絡先 Andrew Klapper, General Chair, Crypto '98
Department of Computer Science
763h Anderson Hall
University of Kentucky
Lexington, KY 40506 USA
Tel: +1-606-257-3961
Fax: +1-606-323-1971
Email: crypto98@iacr.org

原稿 締切終了 (1998年2月16日)

IEEE Fifth International Symposium on Spread Spectrum Techniques and Applications (ISSSTA '98)

日時 1998年9月2日 - 9月4日
場所 Sun City, South Africa
連絡先 Prof. Pieter van Rooyen
Dept. of Electrical and Electronic Engineering
University of Pretoria
Pretoria 0002 South Africa
Email: vroo-pg@fanella.ee.up.ac.za
Tel: +27-12-420-2291
Fax: +27-12-362-5000

原稿 締切終了 (1998年1月15日)

1998 International Symposium on Nonlinear Theory and its Applications (NOLTA '98)

日時 1998年9月14日 - 9月17日
場所 Le Régent, Crans-Montana, Switzerland
原稿送付先 Professor Tohru Kohda
Department of Computer Science and Communication Engineering,
Kyushu University
6-10-1 Hakozaiki, Higashi-ku, Fukuoka 812, JAPAN
Email: nolta98@kairo2.csce.kyushu-u.ac.jp
Tel: +81-92-642-4043
Fax: +81-92-632-5204
<http://www-kairo.csce.kyuchi-u.ac.jp/nolta98/>
原稿 締切終了 (1998年3月13日)

1998 International Symposium on Information Theory and Its Applications (ISITA '98)

日時 1998年10月14日 - 10月16日
場所 Mexico City, Mexico
原稿送付先 Prof. Kohichi Sakaniwa
Dept. of Electrical and Electronic Engineering
Tokyo Institute of Technology
2-12-1 O-okayama, Meguro-ku,
Tokyo, 152 Japan
Email: sakaniwa@ss.titech.ac.jp
締切日 1998年3月31日 (拡大アブストラクト)

ASIACRYPT '98

日時 1998年10月18日 - 10月22日
場所 Friendship Hotel, Beijing, P.R.China
原稿送付先 Prof. Dingyi Pei
SKLOIS, Graduate School of USTC
#19A Yu Quan Road, Beijing 100039, P.R.China
Email: acrypt@public2.bta.net.cn
Tel: +86-10-6821-3046
Fax: +86-10-6821-0501
<http://www.bta.net.cn/asiacrypt98/index.htm>
締切日 1998年4月26日 (12ページ以内)

GLOBECOMM '98

日時 1998年11月8日 - 11月12日
場所 Darling Harbor, Convention & Exhibition Centre,
Sydney, Australia
連絡先 Interim GLOBECOM '98 Secretariat
c/o Ollencio D'Souza
149 Milton Street, Ashfield
N.S.W. 2131, Australia
Email: globecom@elec.uow.edu.au
Tel: + 612 9304213
Fax: + 612 9304273
<http://www.ozemail.com.au/~globecom/>
原稿 締切終了 (1998年1月31日)

PKC '99

日時 1999年3月1日 - 3月3日
場所 Kamakura Prince Hotel, Kamakura, Kanagawa, Japan
原稿送付先 Email: pkc99@imailab.iis.u-tokyo.ac.jp
連絡先 PKC'99 Secretariat
Imai-Lab, the Third Department
Institute of Industrial Science, the University of Tokyo
7-22-1 Roppongi, Minato-ku, Tokyo 106-8558, JAPAN
Tel: +81 3 3402 6231 ext. 2327
Fax: +81 3 3402 7365
http://hideki.iis.u-tokyo.ac.jp/pkc99/
締切日 1998年9月25日
(15 ページ原稿)

EUROCRYPT '99

日時 1999年5月2日 - 5月6日
場所 Hotel Hilton, Prague, Czech Republic
原稿送付先 Jacques Stern, Program Chair Eurocrypt '99
Department of Mathematics and Computer Science
Ecole Normale Supérieure
4S, rue d'Ulm
7S230 Paris cedex 05, France
連絡先 Jaroslav Hruby, General Chair Eurocrypt '99
Konevova 41, 130 00 Praha 3, Czech Republic
Email: hruby@geu.cmp.cz
締切日 1998年10月12日
(12 ページ原稿)

1999 IEEE Information Theory Workshop

日時 1999年6月20日 - 6月25日
場所 Kruger National Park, South Africa
連絡先 Prof. Hendrik Ferreira
Dept. of Electrical Engineering
Rand Afrikaans University
P.O. Box 524, Auckland Park, 2006, South Africa
Email: hcf@ing1.rau.ac.za
Tel: +27 11 489-2463
Fax: +27 11 489-2357
締切日 1999年1月31日 (Recent Results,
ISIT スタイルアブストラクト)

The Twentieth IEEE International Symposium on Personal, Indoor, and Mobile Radio Communications (PIMRC'99)

日時 1999年9月12-16日
場所 Kyoto, Japan

IEEE International Conference on Communications (ICC '99)

日時 1998年6月6日 - 6月10日
場所 Pan Pacific Hotel, Vancouver, B.C., Canada
連絡先 Secretariat, Venue West
Email: congress@venuewest.com
原稿送付先 Prof. Vijay K. Bhargava
ICC 9 TPC Chair
Dept. of Elec. & Comp. Eng.
3800 Finnerty Road, P.O. Box 3055
Victoria, BC, Canada V8W 3P6
Fax: +1-250-721-6048
Tel: +1-250-721-8617
Email: bhargava@ece.uvic.ca
http://www.icc99.com/
原稿 締切終了 (1998年8月15日)

2000 IEEE International Symposium on Information Theory

日時 2000年6月25日 - 6月30日
場所 Sorrento Palace Hotel, Sorrento, Italy
連絡先 Prof. Ezio Biglieri
Dipartimento di Elettronica
Politecnico di Torino
Corso Duca Degli Abruzzi, 24
10129, Torino, Italy
Email: biglieri@polito.it
Tel: +39-11-564-4030
Fax: +39-11-564-4099
http://www.unisa.it/isit2000

次号のお知らせ

「博士論文特集号」

博士論文要旨募集

昨年と同様に、次号(10月発行予定)では博士論文特集を予定しています。本学会に関係のある分野でどのような学位論文が生まれているかは多くの会員が知って祝福したいと考えていることだと思います。

学位を最近取得された方の博士論文要旨の投稿をお待ちしています。

投稿は以下の要領で受け付けます。

- 投稿原稿: 大学に提出する時の要旨のサイズが基本です。昨年のニューズレター No. 27の博士論文特集号を参考にして下さい。
- 原稿形式: L^AT_EXのソースの形であるものが最も望ましいのですが、ワープロ等で作成したプレインテキストファイルでも結構です。電子メールで送って頂くのがもっともありがたいです。
- 原稿切: 9月25日締め切りとします。
- 連絡先: その他、詳細は編集理事・幹事にお尋ね下さい。(巻末を御覧下さい。)

編集後記

ニューズレター第 70 号をお届けします。発行が遅れまして申し訳ございません。

次号は恒例となりました博士論文特集号となっております。お近くに最近博士号をとられた方がいらっしゃったら、是非投稿を呼びかけて下さいますようお願い申し上げます。

また、何か本会への提言等ございましたら、是非御投稿

下さい。ニューズレターに対する、御意見、御要望、企画提案等は下の編集理事、幹事までお寄せ頂きますようお願い申し上げます。

(高田)

編集担当者

高田 豊雄 (編集理事)

〒 020-0173 岩手県滝沢村滝沢字巣子 152-52
岩手県立大学ソフトウェア情報学部
Tel. 019-694-2606
Fax. 019-694-2657
E-mail takata@soft.iwate-pu.ac.jp

佐古 和恵 (編集幹事)

〒 216 神奈川県川崎市宮前区宮崎 4-1-1
NEC C& C メディア研究所
Tel. 044-856-2141
Fax. 044-856-2235
E-mail sako@ccm.CL.nec.co.jp

内匠 逸 (編集理事)

〒 466-8555 名古屋市昭和区御器所町
名古屋工業大学知能情報システム学科
Tel. 052-735-5472
Fax. 052-735-5477
E-mail takumi@ics.nitech.ac.jp

松嶋 智子 (編集幹事)

〒 229-1196 神奈川県相模原市橋本台 4-1-1
職業能力開発大学校情報工学科
Tel. 0427-63-9182
Fax. 0427-63-9186
E-mail tomoko@uitech.ac.jp

情報理論とその応用学会事務局

〒 152-8552 東京都目黒区大岡山 2-12-1

東京工業大学 電気電子工学科

植松研究室 気付

Tel. 03-5734-3243

Fax. 03-5734-2905

E-mail sita@ss.titech.ac.jp